

# 鳥取県花菖蒲協会の活動について

鳥取県米子市 吉灘秀一

## 1 鳥取県花菖蒲協会の発足

「鳥取県花菖蒲協会」設立総会を平成 22 年 6 月 1 日に伊澤副会長の「澤の湯旅館」において、役員承認、会則承認、事業計画承認、予算承認と続き体制が整いました。

設立年月日 平成 22 年 6 月 1 日

会員数 23 名 (22 年 10 月末日現在)

会長 山脇信正 (日本花菖蒲協会副会長)

### ★活動年間事業計画のポイント

#### (1) 花菖蒲の普及活動

#### (2) 花菖蒲講習会、展示会等の開催

①株分け講習会は、あやめ池において 6 月 18 日実施

②展示会は、鳥取県中部、東部において次のとおり開催

##### ・花と緑のフェア

場所：あやめ池公園 6 月 5～6 日

##### ・花菖蒲特別展示会

場所：鳥取県立産業体育館

6 月 19～20 日

##### ・琴浦花菖蒲祭り

場所：まなびタウン琴浦

6 月 18～21 日

#### (3) 日本花菖蒲協会との連携

・日本花菖蒲協会創立八十周年記念式典への参加

・花菖蒲観賞旅行への参加

・秋の花菖蒲研究会への参加

・新年互礼会、総会への参加

#### (4) 会員相互の親睦会の開催

#### (5) その他花菖蒲に関する事業

## 2 鳥取県の各地域の活動の紹介

### (1) 東部地域

鳥取県立産業体育館館長である佃洋一（鳥取花菖蒲協会監事）の熱意とリーダーシップにより昨年に引き続いて花菖蒲展示と即売を体育館内において 6 月 19～20 日の両日実施しました。

協会の会員が育てた江戸系、伊勢系、肥後系の八十鉢を特別展示するほか、育成管理指導育成相談、鉢・ポットの格安販売コーナーもあり多数のお客様の来場があり賑やかなうちに閉幕しました。



(まなびタウン琴浦)

山脇鳥取県花菖蒲協会会長が郷土の琴浦町民に花菖蒲の魅力を存分に伝えるため 13 年の長きにわたり毎年展示会を開催しております。120 鉢、ピンク、紫、白など色とりどりの品種が展示されていた。盆養 10 鉢のコーナー、また一際、特別扱いされているコーナーがありました。そこには大切に育成された希少価値の高い宇宙がパネルで解説付きで展示してありました。



### イ あやめ池公園で「花と緑のフェア」

3 万株の花菖蒲で知られるあやめ池公園で、さまざまなイベントが繰り広げられました。鳥取県花菖蒲会員による展示即売会もその一つのイベントです。物産展、フラワーシップ、木工体験コーナーなどなど。鳥取花菖蒲協会の鈴木さんが「初夏の花を楽しむ～英国風寄せ植え教室」で講習をされました。



### (3) 西部地域

日本花菖蒲協会会員が山根さんと私の2名であったこともあり展示会をこれまで唯一、実施されていない地域です。今年6月の大船での日本花菖蒲協会展示会を觀賞したことから大きな影響を受けて帰りました。米子で山根さんと私を中心となり「花菖蒲展を開催しよう!」と意識を合わせました。

7月に会場(米子市文化ホール)も押さえ本気モードです。夢を語るのは楽しく現在の会員6名で役割分担をしながら「あーしよう、こーしよう」と話しあっているところです。

その一端を披露しましょう。

#### ☆基本コンセプト

- ・大船(日本花菖蒲協会展示会)に学ぶ
- ・花菖蒲文化の展示
- ・6人の特技の展示
- ・花菖蒲展示のほか、盆養、草木染め、俳句、はがき、カレンダー、写真等。
- ・花菖蒲関係以外の特技作品として、英国風寄せ植え、富貴蘭。

### 3 今後の鳥取県花菖蒲協会

(1) 東部、中部の展示会は、今年度まで山協会長、伊渾副会長、山根監事の出品にかたより負担が大きい。今後、東部は東部の会員で開催とそれぞれの地域で実施できるよう会員の育成も考えていく必要があります。

(2) 鳥取県花菖蒲協会員は10月末日現在23名となりました。

会員数をむやみに増やすだけでなく、今後は活動できる会員の充実に努める必要があります。

### 花菖蒲と出会って3年目

鳥取県琴浦町 前田 敏光

今年6月の開花時には、水盤を入れて40鉢ほど持っていましたが9月末には250(水盤・寄せ植え40鉢含む)鉢と400ポット苗これらは隣から借りているプール(4×1.3メートル)2面に入れてあります。90株は2年後の株分け用に裏の畑へ地植えにしています。なぜこれだけ急に増えたかと言いますと、8月1日(日)に講習会が有るので株分けし10株を1束にして85束用意するように山脇先生より依頼があり、7月に入り展示会後の鉢を多く預かって家に持ち帰り作業に取りかかりました、植え替えを頼まれた分と講習会の苗が用意できたら残りはすべて譲ってもらいましたのでそれが急に増えた理由です。

現在は、元気な苗と株を育てよう頑張っています。あたらしい取り組みとして少しですが促成栽培にも挑戦しています。

これからは早咲き遅咲きを品種ごとに分け、花の色ごとに鉢を分けてみようと思っています。また今からこれとは言う品種を選んで来年は交配して自分で花の名前を付けてみようと思っています。

今後、展示会にも積極的に出展し、職場(今年少し展示)や老人ホームにも展示しようと思っています。昨年協会から配布された苗もきれいに咲き、今年配布分も順調に育っています協会役員様には大変感謝しています。今後ともご指導のほどよろしくおねがいします。



(育成中の圃場プール)



## ある日の思い出

鳥取県湯梨浜町 蔦原一子

今年の春はいつまでも寒く、五月半ばになってようやく平年の気温になりました。そのためか花菖蒲の草丈は伸びが悪く、果たして花芽が付くだろうかと心配しましたが、でも自然のいとなみはよくしたもので、平年より一週間程度遅れましたが次から次へと見事な花を咲かせてくれました。毎朝、夜明け前に起床して今日ほどの鉢が開花するのか見て回るのが私の楽しみの一つです。6月22日の朝のこと、真っ白い大輪の花が咲いているのを発見しました。「あっ、きれいな花だ」と思って名札を見ると、「満月の宴」でした。あゝ今年もやっぱり咲いてくれたなあとお礼を言いたいくらい見とれました。この花は、平成18年に山脇信正さんから頂いたものです。奇しくもその日は、琴浦町で山脇さんの花菖蒲展が開催されており主人と二人でその報告に向きました。



(玄関の広間で)

その翌日、「満月の宴」に目をやると、花が前の方に大きく傾いていました。花の重さに耐えかねてか、花首が曲がって今にも折れそうになっていました。これは大変とセロテープを花首の茎におそるおそる巻き付け、これで一安心と思いながらよく見ると、他の花より一段と大きいことに気付きました。花の大きさを測ってみると25cmの大輪でした。今までに見たこともない立派なもので、今年の春は寒かったにもかかわらず、よく咲いてくれたものだと思いが熱くなったのを忘れることができません。その翌日ぼんでいく花に名残を惜しみながら「また、来年も咲いてね」と花を摘んだ思い出の1日でした。

この花との出会いをいただいた山脇さんに改めてお礼を申し上げます。

## 会報保管事業について

～お知らせとお願い～

これまで協会が発行した会報の保存について会長と事務局が検討した結果、協会としての管理体制の他に国立国会図書館に献本するのが後世に亘ってよいだろうとの結論となりました。

そこで、事務局が引き継いでいる在庫と一部役員が収集していた旧号の写しを基に在庫整理し、国立国会図書館（東京・大阪）、事務局、役員宅（戸塚氏）の三か所で保管する段取りといたしました。本事業計画に当たっては、戸塚氏、村井氏、山脇氏等にご協力いただきました。

また、併せて会報の電子化（PDF化）をすすめ整理した会報をスキャナで複写しPDFにしました。PDFにしますとパソコンで読むことも、プリンターで印刷することもできます。

つきましては、次の各号につきましては、所在不明、一部のページが欠、複写の複写の会報がありますので、次に掲げる会報をお持ちの方は、事務局または会報担当佐々木までご連絡いただき、電子化（スキャン）させていただきたくご協力お願いいたします。

### ★欠本の会報

戦前の復刊前の2号、3号、5号、7号、9号、10号、存在していれば12号以降

### ★ページの欠けている号

復刊後の2号、10号

### ★原本でなく複写の複写のもの

戦前のもの全て

復刊後の復刊号、2号、3号、5号、10号、13号、15号

なお、現状の会報PDFファイルの分譲につきましては、事務局に文書にて申し込み、分譲価格5,000円（送料込）を協会の口座に振り込んでいただき、入金確認後、PDFを記録したDVDを送付いたします。

(事務担当者 佐々木)